

## NP-PAK+Rに関するQ&A

日本製紙株式会社  
紙パック営業本部

当社が供給を開始しました新型容器の「NP-PAK+R」に関するQ&Aをご参考までに作成いたしました。

### 記

1. (Q) NP-PAK+Rはゲブル（屋根型）トップ容器とは同じ容器ではないか？  
(A) ゲブルトップの容器とは、頂点が切妻屋根型に加工された箱型紙容器をさしています。つまり容器の屋根の構造をさしており、屋根の傾斜面が本を伏せたような山形の形状を表しています。  
今回のNP-PAK+Rの上の部分は横から見ると曲面となっており、本をのせた構造となっておらず、独自のデザインとなっています。
2. (Q) ゲブル（屋根型）トップ容器は1000ml、500mlが一般的であり、誤認しやすいのではありませんか？  
(A) 先ほどの1での答えにある通り、屋根の傾斜部分が本を伏せた形状ではなく、横から見ると曲面を描いている独自の形状になっています。しかしながら、一般的な飲用乳等の容量との誤認を防ぐため内容表示を明確にしています。  
(参照) 全国飲用牛乳公正取引協議会にある『飲用乳に表示について』のゲブルトップ容器の充填飲料の②を準用し、容器の上部及び正面の2か所に18ポイント以上の大きさの活字で容量表記をすることで、誤認されることがないように運用しています。
3. (Q) NP-PAK+Rの特徴は？  
(A) ①従来のゲブルトップ容器のリサイクル方法である、洗って、開いて、乾かしてという回収方法は、同様に扱うことができます。  
②開け口方向を曲線と合わせることにより、従来の開け方、注ぎやすさをよりシンプルに表現しています。  
③消費者動向にあった内容量を提供することができます。しかしながら、恣意的に複数の充填容量の製品があることは好ましくなく、包装などの適正化に関する条例を順守するとともに、随時関係団体と事前協議することとします。



(向かって右がNP-PAK+R、左は比較用のゲブル(屋根型)トップ容器)

以上